

## 2019 年度 個人研究実績・成果報告書

2020 年 5 月 6 日

所属・職名	商経学部・教授	氏 名	酒井志延
研 究 課 題	英語学習の動機づけを考える		
研究 キーワード	小学校英語教育, 複言語主義	当年度計画に 対する達成度	1.目標を超える研究の進 展・成果を達成した
<p>1. 研究成果の概要：酒井の 2019 年度の研究は 3 つの研究によって構成されている。</p> <p>(1) 小学校の英語教育に関する研究 9 その結果, 著書を刊行した。</p> <p>(2) 複言語教育に関する研究</p> <p>(3) ポートフォリオ『J-POSTL エレメンタリー』の開発</p> <p>そして, 2019 年度中に 1 冊の本を出版した。その本は小学校に英語教育が導入されるので, 小学校で英語教育をする先生のための「小学校英語教育を実施するために, 先生たちがスムーズに小学校英語教育に従事できるようにした研究である。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等</p> <p>【著書】</p> <p>ワクワクする小学校英語授業の作り方, 酒井志延編著, 2019 年, 大修館書店, 全編に監修。</p> <p>【論文】</p> <p>「グローバル化時代における日本の大学の機械翻訳を使った複言語教育の研究」, 『言語教師研究』, 第 7 巻, 第 1 号, 51-64, 2020 年, 査読有。</p> <p>【発表】</p> <p>(1) 「Issues of Utilizing External Human Resources in Foreign Language Education in Japanese Elementary Schools」, The 17th Asia TEFL International Conference and the 6th FLLT International Conference “ JUNE 27th -29th , 2019 Ambassador Hotel, Bangkok, Thailand .</p> <p>(2) 「小学校英語指導者に求められる 資質・能力の特性をめぐって」, 全国英語教育学会 第 45 回弘前研究大会全国英語教育学会弘前大会。</p> <p>(3) 「小学校外国語教育における外部人材（地域人材）の問題」, 全国英語教育学会 第 45 回弘前研究大会全国英語教育学会弘前大会。</p> <p>4. 「外国語教育が揺らす学習者の価値観——グローバル化社会と機械翻訳の時代に何を教えるのか」, JACET 関東支部月例研究会, 東洋大学。</p> <p>3. 主な経費 必要な研究資料を適切に買いました。</p> <p>研究のために, パソコンを買いました。また, 関連書籍の購入や文具代に使用しました。</p> <p>共同研究者の研究のデータ入力のために補助研究員を雇いました。</p> <p>4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）</p> <p>【科学研究費】</p> <p>・基盤研究（B）：平成 28 年度～平成 30 年度、分担、課題名「『言語教師のポートフォリオ』【小学校英語教師編】の開発」（16H03459）</p>			